

事例10:「作った色水を移し替えよう」 5歳児(7月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

③協同性 ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

試す 相談する
友達の考えを取り入れる

素材や材料を工夫する

自分のやりたいことへ向かう

素材を見付ける

素材を選ぶ

これまでの姿

・ビニル袋を使ってA児とB児が朝顔の花で色水を作っていた。試行錯誤するうちに花を揉むと、だんだん色に変化が出てくることに気付いた。

◎ねらい◎内容

- ◎身近な素材に興味や関心をもち、特性を知り、試したり工夫しながら遊びに取り入れて楽しむ。
 - ペットボトル、ざる、じょうごなど道具を使い、試したり工夫したりしながら色水を混ぜ合わせ作っていく。
 - アサガオの花から色がつくことや、水の不思議さに気付いたり、色の変化に興味をもったりする。
 - 感じたことや考えたことを友達と一緒に共有しながら、イメージを膨らませ遊びを進める。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)

A児は、⑦⑧自分で育てたアサガオで色水を作り、ビニル袋に入れた。A児は他の容器に移そうと「何か他の入れ物ないかなあ」と言うと、B児が近くにあったジョウロを持ってきた。⑥A児は色水の入ったビニル袋からジョウロに移し替えた。次にA児は、ジョウロから近くにあったペットボトルに色水を入れようとした。③⑨A児が「うまく入らない。何かいい方法ない?」と言うと、B児が 道具棚からじょうごを見付け、「これ(じょうご)を使ったらいいんじゃない?」と言った。A児は「それ、それー」とジョウロに残っていた色水をじょうごを使ってボウルに注ぎ始めた。すると、じょうごに花びらが詰まって色水が出なくなった。A児が「水が出なくなった」と言うと、B児は道具棚を見渡し、ざるを持ってきた。A児は⑩「これでやってみる!」と笑顔でボウルの中にざるを重ね、ジョウロに入った色水を注いで泡立て器でかき混ぜ始めた。何回かかき混ぜるうちに、ざるの目に花が引っかかることや、色水だけがボウルに落ちていくことを発見した。

★環境の構成

○保育者の関わり

★必要な場や用具(ペットボトル、ビニル袋、カップ、すり鉢、すりこ木、ざる、じょうご等)を用意しておき、友達と思いや考えを伝え合いながら、繰り返し使ったり、多角的に考えて遊ぶことの楽しさを感じられたいようにする。

○道具の形や物の特性に気付いたり、友達と一緒に試したり挑戦したりする姿につながるよう、保育者は近くで見守る。

○道具棚に置いていない道具で試したいことややりたいことの相談があれば、一緒に考えたり、方法を提案したりする。



遊びや学びのプロセス(10の姿)

「色水の移し替え」遊びのプロセス

道具の特性に気付き、道具を工夫して使い始める

○道具棚に置いている物以外に試したり挑戦したりしたい相談があれば、応じる。

道具の特性に気付き始める

★試行錯誤できる場と時間を確保する。

身近な道具を使ってみる

★試すことができる用具を準備しておく。

⑥思考力の芽生え

色水を色々な容器に移し替える中で、それぞれの道具の性質や仕組みなどに気付いたり、考えたり、工夫したりするなど、多様な関わりをしている。また、友達の提案を受け入れ、新しい考えを生み出す喜びを味わっている。



⑦自然との関わり・生命尊重

自分達で育てた朝顔の花が、水にぬれるとどのような色になるか好奇心をもって関わっている。

⑧協同性

共に遊ぶ中で、相手の思いを受け止め、実現できるよう提案し、友達の役に立つ喜びを感じている。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

ビニル袋やジョウロ、ペットボトルやじょうご等それぞれの性質や仕組みに気付く体験の積み重ねが、ゆくゆくは自分達の遊びや生活の中で適当な物を使うことができるようになる。

⑩豊かな感性と表現

色水を色々な容器に移し替えたいというありのままの気持ちが声や表情、身体の動きになって表れている。考えたことに対して必要な道具を選んで表現する過程を楽しんでいる。

⑨言葉による伝えあい
友達の気持ちや状況に
応えられるよう、言葉
と共に具体的な道具を
見せながら伝えている。

小学校教員の気付き

◆困ったり、どうしよう考えたりすることで学びが始まる。そのためにも、小学校でも自由にいろんな考えを試すことができる環境作りがとても大切だと感じた。

◆困ったときに教師がすぐに手を差し伸べるのではなく、友達同士で考えを出し合ったり、試したりできるようにそばで見守り、子ども達に任せることも大切だと感じた。



保護者への発信ポイント

◆“こうしてみたい”という思いをもってやり始めたことを保護者も一緒になって楽しんで見守ってください。助けなくなっても、子供の力を信じて見守ることでいろんな気付きが生まれます。子供が発見したときに褒めたり、認めたりすることで、自信につながります。幼児教育を行う施設として育みたい資質・能力を一体的に育んでいることを「育みたい資質・能力」の図やその中の言葉から、具体的に分かりやすく伝えるといいですね。

